

戦争

読谷小学校

五年

阿波根

くるみ

今から七十二年前、沖縄で戦争がありました。

私が三年生の時、あの沖縄戦でたくさんの人達がひなんした、チビチリガマ、シムクガマに見学に行きました。最初に見学したのはチビチリガマでした。先生が、チビチリガマの話をしてくれました。

「ここでは、たくさんの人が亡くなったんだよ。米軍に殺されるよりも、自分で死にたいって思う人がたくさんいたから、皆助からなかつたんだよ。」
と言われました。だれも助からなかつたという事が、とても信じられなかつたです。

中に入ってみると、人の顔が書かれた像や立入禁止の場所、亡くなった人達の名前が書かれている石などがありました。とくに目に入ったのは、亡くなった人達が書かれた像です。その顔はとても悲しそうな表情で、こわ

かっただんだなととても感じました。

千七千リガマの見学が終わり、シムクガマに行きました。シムクガマでは、懐中電灯が必要と聞いて、そこまで暗いのかな、と不思議に思いました。

中に入ると、本当に暗く、懐中電灯をつけていないと、何も見えないくらいでした。入口のすぐ横の石に、文章が書かれています。その内容は、先生も言っていた、ハワイ帰りの男性の事でした。私がシムクガマに遊難して、助かっていたら、この男性に一生感謝していたと思います。

三年生の時でなく、五年生になった最近は「さとうきび畑の唄」という沖縄戦を再現したドラマを、五年生全員で見ました。大家族が体験した戦争はともかく、米軍に県民はどんな事をされたのかなどが、このドラマを見てわかりました。

今までの千七千リガマ、シムクガマの見学や、学校にある戦争の本などで、戦争のこわ

さ、悲しさが、とても伝わりました。

戦争では何も解決しません。だから、私達
が、平和を一生守っていきたいと思いました